

行政評価シート【分野別施策】

分野別施策 5 -

循環型社会の形成を推進する

目指す姿

一人一人が、自分たちが暮らす地球環境の未来へ想いを馳せながら、家庭や事業活動における、ごみの減量、分別及び資源再生に積極的に取り組んでおり、環境負荷¹の少ない、持続可能な循環型社会²への移行が進んでいます。

- 1 資源やエネルギーの消費、廃棄物や大気汚染物質の排出など、人の活動により環境に加えられる影響で、環境保全上の支障の原因となるおそれのあるもののこと。
- 2 製品等が廃棄物となることや天然資源の消費が抑制され、環境への負荷ができる限り低減されている社会のこと。

成果指標の達成状況

指標名	実績値					目標値
	計画策定時	2024年度	2025年度	2026年度	2027年度	2027年度
1人1日当たりのごみ排出量	818g	765g				↘
ごみの資源化率	25.1%	25.3%				↗

施策の推進に向けた主な取組の「成果」

- ・ごみ減量化推進委員会によるイベント等での普及啓発活動を支援するとともに、市庁舎で生ごみ自家処理相談会を開催しました。
- ・フードバンク湘南と連携し、市庁舎でのフードドライブを実施するとともに、食品関連事業者に対する食品リサイクルの普及啓発を行いました。
- ・可燃ごみ戸別収集の市全域での実施に向けて、対象エリアを順次拡大しました。

施策を推進する上での「課題（・）」と、課題解決を図るための「取組方針（ ）」

- ・ごみの減量と資源化率の向上を図る必要があります。
ごみの分別に関する情報提供のほか、生ごみ自家処理相談会などの実施により、ごみの減量化

や資源化に向けた市民や事業者の自主的な取組を促進するとともに、ごみ減量化推進委員会による普及啓発活動への支援を継続します。

- ・食品ロス削減に取り組む市民や事業者を増やす必要があります。

県や関係団体と連携した食品ロス削減に関する取組を継続するとともに、ごみ通信や市ホームページなど、様々な媒体を活用した周知・啓発を行います。

- ・ごみ出しに係る市民の負担を軽減する必要があります。

民間活力の活用を含めた、ごみ収集体制の検討を継続するとともに、可燃ごみ戸別収集の対象地区を段階的に拡大していきます。また、効果的・効率的なごみ収集の実現に向けて、デジタル技術の活用を推進します。

関連事業

ごみの減量化・資源化促進事業、食品ロス削減・フードバンク活動支援事業、可燃ごみ戸別収集拡充事業

決算額

	2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度
事業費（千円）	1,107			